
パワプロクンポケット0！

ブラッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パワプロクンポケット0！

【Nコード】

N3293Z

【作者名】

ブラッド

【あらすじ】

気がついたら神に転生させらる（中略）パワプロクンポケットの世界にいた青年。死亡フラグが盛りだくさんのところに行きたくないかと反論しようとしたが、その前にパワポケの世界に送られてしまう。なにかと納得できなかった青年だが、諦めは早いのですぐに自分の状況下を受け入れた。

……とまあ、そんなマイペースな青年が不老だとか干渉受けないだとかそれっぽい能力を授かってパワポケの世界で生き延びるお話です。

ブログっぽいもの（前書き）

D・C?、マジこいの両方のネタが思い浮かばなかったので書いてみました。

メインはこの二つの小説なので、こっちの更新は稀にという形です。それでも大丈夫!という方はお進みください……

プロローグっぽいもの

????「いつつ………にやるー、神だったらもつと丁寧な事を運べないのかよ。………でもってここどこだ？」

どうもこんにちは。俺は今大変な目にあってしまっただただの一般人です。

新作のパワプロクンポケット14を買おうと出かけたのはいいものの……気がついたら車に撥ねられていたみたいでした。

そしてテンプレのように無機質な空間に移動させられ、一人ポツンと立っていた老人は案の定神と名乗った。

その神は俺がなんでこんなところにいるのか困惑していたら、口を開いて

神「パワポケの世界に行って転生してこい。チートっぽいなにかやるから。」

なんと理解しがたいことを言ったと思ったら、俺が死ぬ前の出来事を走馬灯のごとく思い出して、脳がその勢いについていけなかったのか嘔吐した。

少しして気分が収まった頃に、あんな死亡フラグ満載の世界に行くなんざ、ご免だったので抗議しようとしたら

神「もう大丈夫のようだな。ほれ、行ってきんしゃい」

足元に黒い空間が開いて、頭からまっさかさまに落ちた。

なんてせつかちな神だろうと文句のひとつでも言おうとしたのに、
できませんでした。

で、黒い空間から抜け出せたと思ったら、今度は空を飛んでました。
……いや、あれは飛んでるというよりは落っこちてたな。あまりの
風圧に耐え切れず気を失って、いつか神に復習でもしようと思っ
て、意識を手放した。
そして今に至る。

……色々納得できないところはあるけど、まあいいか……諦めも肝
心だよなうん。

頭のところがズキズキするのは多分地上落ちた時にぶつけたんだろう
が………良く生きてるな俺。

神が簡単に死んだらつまらんだろうから、向こうでも生き残れるよ
うに力を授けるって言ってたな……まあ、これは後で確認するとし
よう。

頭をさすり立ち上がって360度周りに目をやる。

このでこぼこした地形に広い空間土地からして……

主「採石場か？」

採掘場と言ったら………パワポケ3の時代なのか？

だが、こういう荒れた場所は他にもいくらでもあるはず。年代もも
っと進んでもかもしれんし、まだ3の原作に入ってるとは限らない。
しかもパワポケはシリーズによって時期が被ってる作品があった。

俺は全シリーズを前世でプレイしたことあるとはいえ……ストーリー
やらキャラを鮮明に思い出すことはきつい。最後にやったのいつだ
っけなあ……1と2なんて重要人物くらいしか思い出せんぞ。

原作介入する気はないが（死にたくないし）なんらかの出来事で巻
き込まれる可能性もなはない。

……とりあえず今後のためにも（生き延びるために）神がくれたと思われる力の確認を試みよう。

でもどうやって確認すりゃいいんだろ？うーむ……………手を翳してかめ めはでも打ってみるか？

……………それで放つことができたなら色々と厄介ごとになりそうだ。

えーっと、前世で読んだSSとかを参考にしてみようかな。

こういう時は目を瞑って感覚を研ぎ澄ませれば、頭に思い浮かぶ…

……………はず。

その場でしゃがんで、足を組んで手も印っぱいなにかを組んで、瞑想みたく実行してみる。

主「……………おっ」

すると、頭の中になにかが流れ込んできた。

ふむふむ……………これが俺の……………能力か？

『干渉を遮断する程度の能力』

『不老』

『人外の強さ』

主「……………」

……なんだこれ？

最後のはともかく、最初の能力と不老はなんだ。

どこの鬼巫女だよ……そんなでもってパワポケの世界で不老ですか……。

この二つは後回しでいいや。人外の強さってのは……俺がここに送られて頭から落下して、生きてることが強さの証明になる……か？

……まあ、考えるのはいつだっていいか。

不老ってことは老衰では死なないんだろっし、しばらくは自由気ままにやらせてもらおうとしよう。

主「まずはこの世界の見聞を広めるべく情報収集……旅にできるとし
よう」

こうして俺の終わりなき？旅が始まった……

この後周辺を調べてわかったことだが、極悪高校はまだ廃校とはな
っていないかった。

まだパワポケのストーリーが始まって最初のことってことかねえ……

プロローグっぽいもの（後書き）

主人公の名前は次話で明かします。

それにしても勢いで書いた文章であって酷いなあ……もっとがんばろう。

俺とテニスとスター選手（偽）（前書き）

野球の描写はまだありません。

パワポケだからいいよね？うん、いいはず……

俺とテニスとスター選手（偽）

主「クール……ドライブ！」

あれから10年近く月日が流れました……

原作には特に介入してない。ただ自分の力をこの10年かけて把握しながら、日本中を見て回った。

まず『干渉を遮断する程度の能力』は自分の意思で物事のなにかを決め、影響を受けないというもの。

ちなみに俺は常時この力を発動して「自分の体に害をなすもの全ての干渉」を遮断している。

このお陰で銃弾は俺に当たる寸前のところで消失し、一口食べただけで致命傷になる毒も俺の前ではただの食べ物と化し、俺の生活面は護衛いらすの安全が確保されてる。

……最初の頃は大変だったな！。

力の制御が出来ずに「自身に近いもの全ての干渉」を遮断しちまつたせいで、空気は吸えんわ、近くの生き物は消滅するわ（人間じゃないよ？）手で触れた建物も蒸発しちまつたし……。

まあ、今はそんなこともなく他の人が俺に触れることだって問題なくできるし、致命傷にならない物体が俺に飛んできてても不自然に消えたりはしなくなった。

制御できれば色々と応用できるしなこれ。

でもって不老もこれまた便利で、自分の容姿……肉体年齢を上下に操作できる。

つまり、自由に大人になれたり、子供になれたり、学生に変化する

ことが可能だ。

ちなみに俺は17歳のところで止めてある。ここに送られたのが前世と同じ年齢だったし、今は無闇に年齢詐称する必要ないしな。

『人外の強さ』これに関してはそのまま。語ることもなんてほとんどない。

実体験を語るなら……不良30人を片手でいなせます(笑)
こんだけで十分っしょ。

でもって今はバイトで貯めた金(身分証明書?偽造ですがなにか?W)で買ったラケットを装備し、地域の公園で知らない人たちと試合をします。

ストリートテニスってやつだ。

……うん?野球しろって?あゝ……………気が向いたらねww

モブA「うおっ、なんだ今のスマッシュは?!バウンドしなかったぞ!」

モブB「すげーよあいつ……………これで15人抜きだぜ」

モブC「他の試合したやつらは疲れて倒れてやがるってのに……………あいつは息のひとつさえ乱れてないぞ……………」

なにやら外野が喚いてるな。

一通り試合をできたので、そろそろここを立ち去るとすっかな。うん、満足したし。

クールドライブ打てたしwww

にラケットを担ぎこの公園から出ようと

少年S「なあなあ、昨日のパワフルスポーツ見たか？」

少年D「見た見た。小杉選手16試合連続ノーヒットだろ。最近スランプみたいだな」

少年S「そうそう、それにこの間の試合が終わってから、ファンと喧嘩して殴ったみたいだつてさ」

少年D「うっそマジ？それってやばいんじゃないの？」

少年S「それとは違って大神モグラーズの選手いるじゃん？あの選手がそれまた」

公園の入り口のところでなにやら野球談義をしている少年二人の会話に耳を傾ける。

俺がぼけーっとしてる間に原作は5まで進んで行ってるみたいだな。たしか過去に一度プロペラ団と名乗るやつが俺のことをプロにならないかと勧誘してきたことがあったなあ……気まぐれで草野球の試合の助っ人に参加しちまったのがいけなかったっけ。

その団員が余りにもならないか？ならないか？とキモイぐらいにしつこかったから、バツクドロップをコンクリの上で決めてやったぜ

www

主「ふーむ……小杉かあ」

パワポケ5はシリーズの中でもかなり好きな作品だった。

それでもってその作中に出てくる小杉は男キャラでも結構好きだったんだよなー。

あ、性格は入れ替わった方のだけだね。

小杉優作

入団一年目で新人王に輝き、ルーキーのスター選手。

2年目の春に大神モグラーズになる前のドリルモグラーズ所属の万年2軍球団のお荷物のパワプロクン（5主）とお互い走った勢いを殺さず、衝突してしまいお互いの精神が入れ替わる。

その後は5主（小杉優作本人）として、どうにか元の体を取り戻そうとしパワプロクンの体で生きていく。

クビ寸前の状態から、不幸に負けじと努力し三年目には小杉（5主）と同じ舞台にまで上り詰め、日本シリーズで頂上決戦をする。

その後は5主として歴史に残る活躍をしたんだろうが、そこんこは公式でも公開されてない。

で、入れ替わった方の小杉優作。

こっちはかなり曖昧なんだっけ正史が……

ゲーム内では3年目の試合で勝ち続けるとグッドエンドを迎え、5主（小杉）と和解して生涯のライバルとして活躍する……といったものだった。

逆に優勝できず、日本シリーズに参加できないとBADで小杉（5主）はそのまま墮落していき、入れ替わる前の友人、塚本……だっけ？（影薄いやつの名前なんぞ覚えてられんw）裏切られてしあわせ島という場所に島流しされ売られそこで強制労働をさせられる。

ちなみにこっちの方が正史であって、パワポケ5の次回作、パワポケ6での裏サクセスでチームメイトとして小杉（5主）が登場するからだ。

その後は表サクセスで登場しないが、おまけサクセス。野球にまったく関係ないストーリー裏サクセスでちょこちょこ登場する。

たしか小杉は5、6裏、9裏、14裏で仲間キャラとして出てくる。裏では結構活躍するのに、本編だとあれだからあ……あれ？6裏って一応本編の続編だっけか……

まあ、そんなことはいいんだ。俺が言いたいのは小杉優作（入れ替わり）は個人的に好きなキャラなので、BADENDになってほしくないのですよ。

原作崩壊するだろうが、でもそんなのかんげいねえ！（ネタ古いつて言わんでwww）

今まではただのんびりと過ごしてきたが、いい加減退屈してきたんですよ！もう暇で暇で……宛てのない旅がここまで退屈だとは思わなかったんだよ……男のロマンだと思ってたのになあ。

それに一人旅なわけで人肌が恋しくなっただんですよ……あ、念のため言っておくけど俺は鬼鮫、阿部さん、兄貴のような性癖の持ち主じゃないからな！

普通に女の子が好きなのーマルな嗜好の人だ！

よし、善は急げだ！今から小杉（5主）のところに突撃だー！

ー！ー！ー！

主「にんにん！」

しゅばっ！

『消えた！？』

ふひひwww人外な体でサーセンwww
www

Side)小杉優作(5主)

「……くそっ、どいつもこいつもバカにしゃがって！」

道路に転がっていた空き缶を思いっきり蹴っ飛ばす。

だが、こんなんでは俺の怒りは収まらない。

せっかくあの小杉から体をもらったのに俺の成績は下降するばかり。それどころか、俺の調子が悪いことに勝手に期待してたファンの野郎は野次を飛ばしてきやがる始末。

今までの結果が出せないこともあったので、ストレスがピークに達

した俺は怒りに任せてそのファンを殴ってしまい喧嘩に発展してしまっ
た。

球団からはしばらく自宅謹慎の処分と減俸が言い渡された。

「ちつ、このままじゃ昔の俺に戻るのか……？」

蹴り上げた缶のとこまで歩き、拉げた缶を拾い握りつぶす。

冗談じゃない……もうあのなにもかもに絶望した時の俺には戻りた
くない！

それにあいつ、この小杉優作の体持ち主だったやつ。俺の体でどん
どん上に上り詰めてやがる。

……万年二軍で解雇寸前の俺の体でだ！

ふざけんな！俺がどんなに練習しても一軍には上がれなかったん
だぞ？！それが俺に対してのどれだけの屈辱かわかるか……！

俺にだって入団初めの時は練習にもまじめに取り組んでいたんだ。

けれどいつまで経っても二軍のまま、他の同期、後輩は俺を置いて
一軍に上がっていく。

毎年そんなことが続いたから俺は野球への情熱を失い、酒と賭け事
に溺れていった……

仲間には見捨てられ、野球には裏切られ、偶然この新人スター選手
の体を手に入れたのにまた落ちぶれるだと……？

「もう負け犬にはならねえ……なりたくない！そのためだったらど
んな困難にも乗り越えてみせる！」

「その言葉に偽りはないですか？」

な……

「誰だ!？」

後ろから声がしたので、後ろを振り向いてみるがそこには誰もいない。

空耳か?だがしっかりとこの耳に届いたんだが……

「気のせいか。……疲れてるのか俺」

「ええ。そのとおりです」

「!?!」

今度は俺が進路方向に歩いてた方からさっきと声が。

勢い良く振り向くとそこには銀髪の長い髪を下ろし、見ていると全てを自分の世界に引き込むような蒼い目をした和服を着こなした女が薄ら笑いをして立っていた……

side 小杉優作 (5主) out

あれが小杉優作か!。遠巻きに見ても機嫌が悪いつてことがわかるな。

あ、缶蹴っ飛ばした。
もうちよつと様子を見てから小杉と話して見るとするかな。

「ちっ、このままじゃ昔の俺に戻るのか……？」

舌打ちをしてさっき蹴っ飛ばした缶を拾って思いつき握り潰していた。

小杉にばれないように、『気配』と『姿』の干渉を断ち切り、今の俺は完全に空気と化してる。

たとえ相手がどんなに敏感で勘が鋭い人でも俺を視ることはできないが、雰囲気を出すために電信柱の影に隠れて小杉の様子を窺っています。

こういう探偵っぽいことってガキの頃に一度あこがれてたんだよね。まさかするとは思ってなかったけどさ。

「もう負け犬にはならねえ……なりたくない！そのためだったらどんな困難にも乗り越えてみせる！」

ほむほむ……紛いにもプライドはあるみたいだな。
でも口先だけじゃ結果はでないしねー。そろそろ話しかけてみるとするかな。

「その言葉に偽りはないですか？」

小杉の背後に立ち声質を女性に変えて、聞いたです。

「誰だ！？」

びくつと一瞬身体を竦めてから、こっちを振り向く。

男の癖になにびびってやがると思ったが、時刻は日付が変わる頃。

そんでもって道は狭いし人通りも少ないとこにいきなり後ろから声が聞こえたら誰だつてびびるか。

「気のせいか？……疲れてるのか俺」

あ……そういや俺今見えないんだっけ。

このまま元に戻ってもいいんだけど、能力の説明とかしなきゃならんかもしれないし……もう一度小杉の背後に移動してから干渉を復元するとしよう。

「ええ。そのとおりです」

「！？」

首が吹き飛びそうな勢いで体と共に反転する小杉。

「だ……誰だお前は！」

「さあ、誰でしょうね。知りたかったらまず自分から名乗るのが礼儀じゃありませんか？」

「……俺はこs」と言っても貴方のことは存じているのですが、小杉優作選手ですよ。今年で3年目2なるプロ野球選手」……

「……」

あっはっは。まあ、そう睨みなさんなつて。

ちよつとしたお茶目じゃんか。お前さんのそのイライラを和らげて上げようとしたからかい半分のお茶目だつてのに。

まあ、逆効果みたいだったけどw

「……………お前は？」

「そうですねー。一方的にこっちが貴方のことを知っていただけで
すから、名乗る必要はないのですが特別に苗字を教えて差し上げま
しょう」

「……………」

おやおや？肩がぶるぶると震えてるな。

俺のことをぶん殴りたいのかもしれないけど、ついこの間ファンと
殴りあったこともあってか、理性で抑えてるようだ。

それに初対面だったら俺は男じゃなくて、まず女に見えるからだろ
うな。前世ではありえない銀色の髪は肩までかかるくらいに下ろし
てるし、紫色の紫陽花の絵柄が書いてある女性用の着物を着てるし、
言葉遣いも柔らかかくしてあるし。一人称は俺から私にしてるからね
ー。

なぜかって？そっちのほうが相手の反応が面白そうじゃんwww男
だって知った時の反応がwww

「仁王です。どうぞよろしく」

俺にできる精一杯の笑顔を浮かべて手を差し出す。

ついでに言うと俺の本名は 仁王雅《におう みやび》。雅って
女性っぽい名前だよなー

前世ではそれが原因で女らしくない男とか言われてからかわれてた
っけなー。前世の容姿は誰が見ても男だったので当たり前前なんて
どよ。

「っ！ぶ、ぶん！よろしくしてやってもいいぜ／＼」

……おやおや、意外と初心なんだな。

こっちが差し出した手を取らずに赤くなつた顔を誤魔化すようにそっぽを向く。

これは俺が男だと知つたらどういうリアクションをするか楽しみだな。

ま、おふざけはこのくらいにして本題に入らせてもらつとしますかね。

「それですな小杉さん。私がここに着たのは貴方に用があるのですよ」

「ふん……俺にはないぜ。それに俺は疲れてるんださっさとその用とやらを済ませてくれ」

なんか矛盾してない？用がないのに俺の用に付き合つてくれるのかよ。

意外と人付き合いはそう悪くないのか？こっちとしては好都合なんだからいいんだが。

「では単刀直入に申し上げます。小杉さん
猛ける 貴方はもつと野球がうまくなりたいたいですか？」

いえ、五十嵐いからした

「!？」

はてさて……どうなることやら……

俺とテニスとスター選手（偽）（後書き）

パワポケ5はパワポケシリーズの中でも屈指の面白さ！

一応作者はなんとか買い集めて、全シリーズをプレイしましたw

現在はパワポケ5の話にちよつとだけ介入しますが、その後のことはまだ未定ですかね！。

9と13、14には介入させたいつもりですが……そこまで続くかなあこの作品……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3293z/>

パワプロケンポケット0！

2011年12月11日12時46分発行